

## 平成25年度第5回 まちづくり寺子屋

### 「明日のいばらきを創るために」 講義概要

日 時：平成26年1月18日（土） 午後1時～

場 所：茨木市役所南館10階大会議室

テーマ：「茨木のエコなまちづくりを考える」

講 師：立命館大学政策科学部 教授 小幡 範雄 氏

#### <小幡先生のプロフィール>

13年間環境アセスメントや自治体の環境政策の計画等に携わった後、神戸大学経済経営研究所の助教授を経て、1996年より立命館大学でご活躍されています。

問題解決指向型の環境政策や環境システム論を専門とされ、家庭・企業・地域の環境管理システムの設計や評価等に取り組んでおられます。



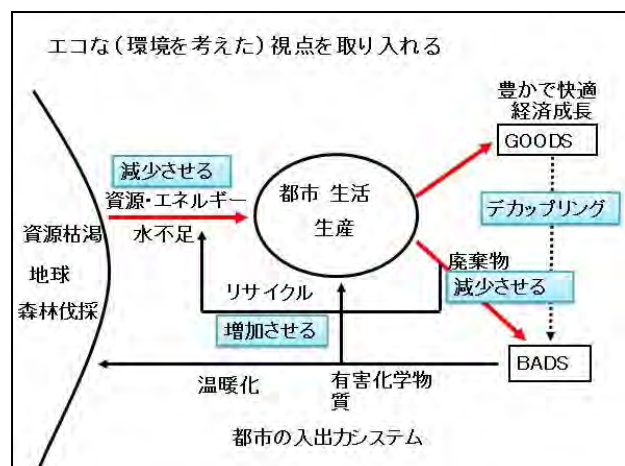
立命館大学政策科学部  
教授 小幡範雄 氏

本日は、エコなまちづくりを考える上で大切となる視点についてお話しします。

茨木市環境基本計画の施策体系は、「人と環境に優しい都市 茨木」を根幹に、「人と自然との共生」、「循環型社会の構築」等の計画目標があり、その先に目標実現のための「エネルギーの適正利用」、「地球温暖化対策」、「環境教育・環境学習の推進」等の施策を掲げています。

現在、市で取組を進めているこの基本計画の見直しにあたっては、エコについてどのように考えるかが重要になります。

そこで、エコな視点を取り入れて、資源・エネルギーと廃棄物を減少させ、リサイクルの増加を目指します。資源制約という観点では、石油は2016年に採掘のスピードが最大になり、以降、低減していきます。ニッケル、マンガン等の重金属も、2050年に埋蔵量をほぼ使い切る、あるいは使用量が現在の2倍以上になり、枯渇性資源と言えます。原油も金属類も残りの埋蔵量はかなり逼迫しています。



廃棄物については、京都市が一般家庭のゴミ袋を調査したところ、食べ残しが42%もありました。一方、人間活動が環境に与える負荷を、資源の再生産及び廃棄物の浄化に必要な面積として示した指標であるエコロジカル・フットプリントを見ると、2008年時点で地球が2.3~2.4個必要になっています。

また、日本では水を年間831億 $m^3$ 、様々な形で輸入しています。東京大学の計算では、牛丼一杯を作るのに1,890Lもの水を使っています。これには輸入した牛が育つために使われた水も換算されていますので、もし食料紛争が起これば大変なことになります。

フードマイレージは食物の輸送距離とCO<sub>2</sub>の排出量の関係を表し、鮭1切れをチリから輸入するのと国産では3~4倍の差が出ます。また、ブルーベリー200gをアメリカから飛行機で輸入すると2,780gのCO<sub>2</sub>を排出する計算となり、自動車を8km運転するより大きな値になります。そのため、地産地消や食べ方についても考える必要があります。



エコなまちづくりを考える方法としては、まず「地元学」が挙げられます。これは地域の人々が主体となり、地域外の人々の助言や見え方を参考にしながら、地域の個性に気付いて、独自の文化を考えるという知的創造行為です。「ないものネダリ」ではなく、良いものを探す「あるもの探し」により、地域に愛着が生まれ、新たな発見をまちづくりに活かします。取り組みとしては、まず、まちのどこにどのようなものがあるかを示す絵地図を作り、気付いたことを話し合い、文化について確認するのです。

地元学が発展した事例として、水俣を紹介します。水俣病裁判がほぼ決着する中で、1999年にメモリアルパークができたのを機に市民が集まって話をするようになり、地域マップづくりが始まりました。そして、市が環境モデル都市づくり宣言をし、基本計画や観光協定を作り、2009年には「水俣市・環境モデル都市アクションプラン」を策定しました。

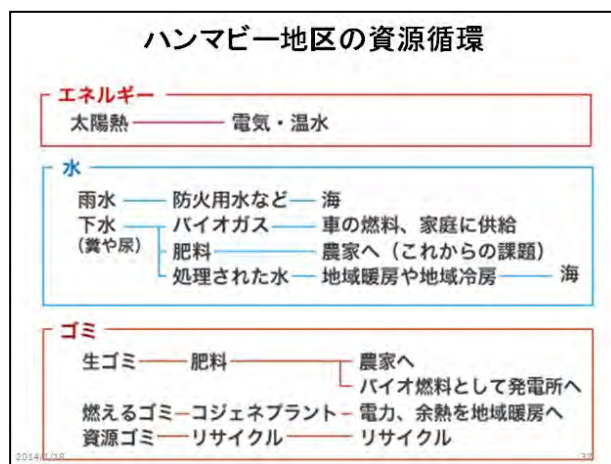
### 水俣市・環境モデル都市アクションプラン

平成21(2009)年3月

- ★水俣の環境地図づくり
- ★ごみの分別・減量(23種分別)
- ★環境ISOのまちづくり=地域丸ごとISO
- ★(家庭版・学校版等の環境ISO制度)
- ★環境マイスター制度
- ★地区環境協定制度
- ★エコショップ認定制度
- ★エコタウンの連携 などなど

海外では、ストックホルムのハンマビーの事例があります。オリンピックの誘致失敗を受けて、サステナブルなまちづくりに取り組み始めたまちで、80%の食料廃棄物を燃料やバイオエネルギーにする、自動車を利用しない、太陽光発電や太陽熱温水器で電気や温水を作る等、様々な技術開発が行われています。

また、ハンマビーでは、環境を良くするために辛抱するのではなく、多様な選択肢を提示したルールを作っています。例えば、バイオエタノールの自動車に乗るのも、別途税金を払って燃費の悪い車に乗るのも自由です。ハンバーガーのメニューにはCO2排出量が書かれ、タクシーの4台に1台はエタノールやバイオガスで走るエコタクシーです。



環境と経済は合わせて考える必要があります。例えば、綺麗な水が色々なものを洗浄した結果排水になります。排水をもう一度綺麗な水にするには必ず仕事が必要になります。ものづくりは、原材料を加工して製品にし、経済価値を高める中でエントロピー(混ざり具合)が大きくなります。

最後に、「持続可能で明るい未来」を目指して、「現在はどうすればよいか」と考えるバックカスティングという方法で、皆さんに20年後の茨木について考えていただきます。茨木の環境の良いところと悪いところを自由に連想し、コンステレーション(星座)マップを描いてみてください。

●コンステレーションマップ作成後、2名が発表しました。

自分たちでできること、伸ばしたいところもたくさん出てきました。これをきっかけに、これからの茨木市を考えていただければと思います。



●講演後に質疑応答が行われました。

**質問：**石油が少なくなるという予測の根拠は何でしょうか。

**答え：**確認されている埋蔵量が分かっており、採掘するスピードは2004年、2016年に最大になると予想されています。その後は深いところを掘らなければならず、採掘スピードが落ちるということです。

**質問：**沖縄海洋博の時に空き缶の回収機が設置されましたが、「音がうるさい」等の意見で中止になり、国内では見かけません。海外ではどのような場所に設置しているのでしょうか。また、洗浄していない缶を潰すので、夏場は悪臭が発生して嫌がられるそうですが、いかがでしょうか。



**答え：**先程紹介したハンマビーでは、マンションの近くの広場に置かれており、周辺に住宅はありません。

**市：**茨木でも以前、店頭でトレイやペットボトルの回収ボックスと一緒に空き缶の回収機を設置しているスーパーがありました。

**意見：**1970年の万博時につくられた駅前や住宅地は、住民の高齢化や交通渋滞等の課題を抱え、産業構造や人口の変化にまちづくりが追いついていません。ユニバーサルデザインや新技術を取り入れた道路整備等、全体的なまちづくりについて、どうすれば実現できるか、市民参加の観点から皆で考えていかなければならないと思います。



**先生：**自転車道の整備や、道路を拡幅できない場合に一方通行にする等の社会実験を行っているところがあるので、それらを参考に、皆さんで考えることも一つの方法かもしれません。

**市：**茨木市では大阪万博に合わせて駅前周辺を整備しましたが、現在では時代のニーズに合っていないという意見も耳にします。JR茨木駅東口は現在、再整備を進めており、来年度に新しい駅前広場が完成するほか、エスカレータの設置も検討中です。市では現在、次期総合計画を策定中ですが、それと連携して、都市計画マスタープランの改定を進めるほか、交通戦略を策定し道路整備や、山間部の方々の足の確保、公共交通の利用促進、自転車の通行空間の整備等、少しでも茨木市のまちを良くするための取り組みを行っています。

編集：茨木市都市整備部都市政策課

〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号

TEL：072-620-1660（直通）／ E-mail：toshi@city.ibaraki.lg.jp